



## はじめに

---

この章は、次の項で構成されています。

- [VMware vRealize Orchestrator 用 Cisco UCS Central プラグインについて, 1 ページ](#)
- [システム要件, 1 ページ](#)
- [メモリおよびCPU 使用率, 2 ページ](#)

## VMware vRealize Orchestrator 用 Cisco UCS Central プラグインについて

vRealize Orchestrator (vRO) は、拡張可能なワークフローのライブラリを提供する開発およびプロセス自動化プラットフォームです。これらのワークフローによって、VMware vSphere インフラストラクチャを管理するための自動化された、構成可能なプロセスを作成し、実行することができます。vRealize Orchestrator は、他の管理ソリューションと統合できるオープンプラグインアーキテクチャを使用します。

Cisco UCS Central プラグインは、vRealize Orchestrator のオープンプラグインアーキテクチャを利用して UCS Central と vRealize Orchestrator を統合します。統合後、プラグインで vRealize Orchestrator の機能を利用して、UCS Central サーバでタスクを作成し、ワークフローを定義できます。

## システム要件

### VMware vRealize Orchestrator

このバージョンのプラグインは、次の VMware vRealize Orchestrator リリースでサポートされています。

- vRealize Orchestrator 7.x

### Cisco UCS Central

このバージョンのプラグインは、UCS Central の次のメジャー リリースに対応しています。

- リリース 1.4.x
- リリース 1.5.x

## メモリおよびCPU 使用率

メモリおよびCPU 使用率は、vRealize Orchestrator サーバの JVM プロセスのメモリおよびCPU 使用量に基づいています。Cisco UCS Central プラグインの実行による vRealize Orchestrator 環境のメモリと CPU への影響はかなり小さく、無視できます。JVM のメモリと CPU の使用量は、プラグイン使用のさまざまな段階でモニタ済みです。